

美里町のフットパス事業にみる住民参加に関する考察

熊本大学工学部社会環境工学科 学生会員 ○坂本政隆
熊本大学政策創造研究センター 正会員 田中尚人

1. はじめに

近年地方分権の流れなどにより、まちづくりにおいて住民の自治が重要であると言われるようになった。そのため「地域の意志を育てるまちづくりが求められている」¹⁾。さらに長崎さるくなど日本では歩くまちづくりが多く見られるようになり、歩くことによる地域づくりのひとつとして近年「フットパス」が注目されている。

本研究では熊本県下益城郡美里町を対象に、フットパス事業における住民参加の構造と促進過程を考察することを目的とする。

2. フットパス事業における参加の定義

本章では、フットパスの概要、一般的な「参加」の定義を示し、フットパス事業における着目点を示す。

(1) フットパスの起源

フットパスとは、イギリスを発祥とする森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く【Foot】小径(こみち)【Path】のことである。

日本においてフットパス事業が展開されてきたのは1990年代後半から2000年代にかけてである。この時期は国民の間で健康への関心が高まり、質を重視したライフスタイルへと変化した。その中で、地方での生活が見直され始め、Iターン者など都市農村交流の機会が増加してきた。また、長引く経済不況の中で、地方自治体は自立的な地域発展をしていかなければいけなくなった。このような社会的背景を受けて、地域らしさを見つめ直し、訪問客を呼び込める手段としてフットパスへの注目が高まってきた²⁾。美里町におけるフットパスの様子が写真1と写真2である。



写真1 美里町におけるフットパスの様子1



写真2 美里町におけるフットパスの様子2

(2) 参加の定義

シェリー・アーンスタインの「住民参加のはしご」³⁾を参考に、本研究における参加の段階を次のように定義した。

- (i) 知ること
- (ii) 意見を聞くこと、言うこと
- (iii) 活動すること
- (iv) パートナーシップ(協力関係)
- (v) 住民によるコントロール

(3) フットパス事業における参加の着目点

以下の3つの視点から美里町のフットパス事業を明らかにし、住民のヒアリングを踏まえて参加について考察する。

①経緯(契機)、②コースづくり、③運営システム

3. 美里町のフットパス事業の経緯

本章では、美里町の概要を示し、美里町がフットパスを取り入れた経緯(契機)と住民がフットパス事業に参加しようとした契機を明らかにする。

(1) 美里町の概要

美里町は平成16年に中央町と砥用町が合併して誕生した。現在の人口は11,298人、面積は144.03km²となっている。美里町は、九州の中央付近に位置しており、熊本市から南東へ約30kmの距離にある自然豊かな地域である。

(2) フットパス事業の経緯

フットパス事業の経緯を関係者のヒアリングを基にして年表にまとめる。

表1 美里フットパス年表

年代	出来事																														
2010年5月	小学館の「Be・PAL」でフットパスの記事を発見 (イギリスの事例と日本＝野田の事例)																														
2010年5月	美里NPOホールディングスが九州で初めて日本フットパス協会に加盟 「九州環境教育フォーラム」において、フットパスが九州中へ拡散し始める。																														
2011年3月	町内でテストコース（二俣橋コース、壺台橋コース）を選定し、マップを制作																														
2011年7月	地域振興協議会が設立																														
	<table><tr><th>地域振興協議会</th><th>商工会</th><th>雇用促進協議会</th></tr><tr><td>5コース作成（2011年） （小崎、大井早、畠野、砥用、二俣）</td><td>フットパス弁当の考案 物販（フットパスタオル、バッジ、バスポート）の考案 ウォーキングイベントの考案</td><td></td></tr><tr><td></td><td>親子フットパス@畠野コース（モニターツアー）</td><td></td></tr><tr><td>2012年10月</td><td>福岡フットパス@壺台橋～二俣橋（モニターツアー）</td><td>ガイド養成講座</td></tr><tr><td>2012年11月</td><td>美里の秋フットパス@小崎棚田コース（モニターツアー）</td><td>おもてなし講座</td></tr><tr><td>2012年12月</td><td>なかもほ館フットパス@壺台橋下ため池コース（モニターツアー）</td><td></td></tr><tr><td></td><td>フットパス公式ページ「美里四季」の制作</td><td></td></tr><tr><td></td><td>フットパス弁当の考案 物販（フットパスタオル、バッジ、バスポート）の考案 ウォーキングイベントの考案</td><td></td></tr><tr><td>2013年3月</td><td>地域振興協議会が解散</td><td></td></tr><tr><td>2013年4月</td><td>美里フットパス協会設立</td><td></td></tr></table>	地域振興協議会	商工会	雇用促進協議会	5コース作成（2011年） （小崎、大井早、畠野、砥用、二俣）	フットパス弁当の考案 物販（フットパスタオル、バッジ、バスポート）の考案 ウォーキングイベントの考案			親子フットパス@畠野コース（モニターツアー）		2012年10月	福岡フットパス@壺台橋～二俣橋（モニターツアー）	ガイド養成講座	2012年11月	美里の秋フットパス@小崎棚田コース（モニターツアー）	おもてなし講座	2012年12月	なかもほ館フットパス@壺台橋下ため池コース（モニターツアー）			フットパス公式ページ「美里四季」の制作			フットパス弁当の考案 物販（フットパスタオル、バッジ、バスポート）の考案 ウォーキングイベントの考案		2013年3月	地域振興協議会が解散		2013年4月	美里フットパス協会設立	
地域振興協議会	商工会	雇用促進協議会																													
5コース作成（2011年） （小崎、大井早、畠野、砥用、二俣）	フットパス弁当の考案 物販（フットパスタオル、バッジ、バスポート）の考案 ウォーキングイベントの考案																														
	親子フットパス@畠野コース（モニターツアー）																														
2012年10月	福岡フットパス@壺台橋～二俣橋（モニターツアー）	ガイド養成講座																													
2012年11月	美里の秋フットパス@小崎棚田コース（モニターツアー）	おもてなし講座																													
2012年12月	なかもほ館フットパス@壺台橋下ため池コース（モニターツアー）																														
	フットパス公式ページ「美里四季」の制作																														
	フットパス弁当の考案 物販（フットパスタオル、バッジ、バスポート）の考案 ウォーキングイベントの考案																														
2013年3月	地域振興協議会が解散																														
2013年4月	美里フットパス協会設立																														

(3) フットパスの契機

1) 美里町がフットパス事業を取り入れた契機

美里町は九州中央付近に位置し、通過人口が多いが、滞在人口が少ない。この問題を解決する為に滞在時間を長くし、交流人口を増やすことが目的である。

2) 住民がフットパスに取り組む契機

住民がフットパスを知る契機となった主な要因は、広報と地域間での情報交換が盛んになったことである。

フットパスに取り組む契機は住民へのヒアリングによると、「町や地域が盛り上がれば」、「美里フットパス協会の職員に勧められてした」などの意見が挙がった。

4. フットパスのコースづくり

本章では美里町におけるコースづくりの手法を明らかにして、コースの概要と特徴を示す。そしてコースづくりにおける「参加」の考察を行う。

(1) コースづくりの要点

- 美里町のコースづくりにおける要点をまとめる。
 - a) コースをつくる際に何度も地域を歩く
 - b) 坂や回り道などをコースに取り入れる
 - c) コース上にトイレと駐車場を入れる
- 完成したフットパスマップの一例は下の図1である。



図1. 美里町のフットパスマップ

(2) コースの概要と特徴

10コースの概要と特徴を以下の表2に示す。

表2 コースの概要と特徴

コース名	距離	所要時間	トイレ	駐車場	お楽しみポイント	特徴
小崎神社コース	約4km	90分	なし	あり	77	8の字コースで棚田の美しい景観が広がり、美里のマチュピチュと呼ばれている。
大井早と黒コース	約8km	120分	あり(1)	あり	77	里山、棚田、ダム、景色が変化するのは楽しみのコース、その風景は美しい。
歌野と山々コース	約5km	110分	あり(2)	あり	77	途中道歩き道があり、そこから見えるダム湖はきれいな、竹に囲まれた竹林の道がある。
道台橋と橋コース	約9km	160分	あり(2)	あり	77	道台橋の地にも小さな石橋が沢山あり、石橋を渡るコース。
柏川井手コース	約6km	130分	あり(2)	あり	77	井手用水路が山中を流れており、城跡の跡が残り、山道、水遊び等がある。
庭用まちなコース	約5km	110分	あり(3)	あり	77	市街地を走るコース、能登鉄道駅跡や集落の移動など、地域の歴史を感じるコース。
二俣橋コース	約5km	110分	あり(2)	あり	77	恋人の聖地である二俣橋、馬門橋等の石橋や能登鉄道跡などがあるコース。
岩野用水コース	約7km	140分	あり(2)	あり	77	スタートゴール地点が異なるコース、江戸時代後期に作られた用水路がある。
白石野里山コース	約6km	120分	あり(1)	あり	77	小学校跡がスタート地点の里山に囲まれたコース、棚田の風景が見下ろせる。
里山下りたコース	約6.5km	130分	あり(2)	あり	77	九州山地の眺望ポイントがある。ベンチがある所もあり、歩ける環境作りがなされている。

二俣橋コースでは車がよく通る道があったが、住民の方が整備してコースに取り入れられていることが分かった。

(3) コースづくりにおける参加に関する考察

住民は何回も歩きに来るフットパス協会の方からフットパスの説明を受け、参加(i)が促されている。歩く回数を重ねると、住民は昔の道やその地域特有の面白い道を教えてくれる。これが参加(ii)につながる。住民の方が教えた道が実際のコースに取り入れられると住民は自分が教えた道だからという理由で整備をする人がいる。これが参加(iii)にもつながる。このように住民の方と接してフットパスを知ってもらうことで、住民がフットパスを受け入れやすくなっている。

トパスを知ってもらうことで、住民がフットパスを受け入れやすくなっている。

5. フットパス事業の運営システム

本章ではフットパス事業の運営に関わる主体を整理し、美里町における運営方法を明らかにする。そして運営システムにおける「参加」の考察を行う。

(1) フットパス事業に関わる主体の整理

現在フットパスに関する運営は美里フットパス協会の運営委員会を中心に行っている。美里町の場合は、各団体における住民同士の連携により現在の運営に至っている。

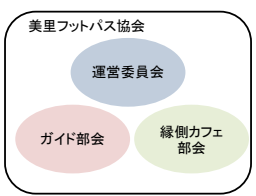


図2. 運営に携わる美里

フットパス協会内部の組織

(2) フットパス事業の運営方法

美里町では年10回のフットパスイベントを開催しており、ガイド部会がコースを案内し、緑側カフェ部会が漬物やお茶などでおもてなしをしている。他には親子フットパス、婚活フットパスなどのイベントもある。更に自由に歩けるようにコースのマップが販売されており、フットパスに対して住民以外の参加の機会も増やしている。

(3) 運営システムにおける「参加」に関する考察

住民へのヒアリングによると、フットパスは「自分の地域を見つめ直すいい機会」、「おもてなしをして喜んでくれると元気が出る」という意見があった。今までの単発のまちづくり活動やイベントとは違い、美里町のフットパスは地域住民が主役であり、訪れに来た人と直接接するのは住民である。そのため住民がフットパスに取り組んでいると考えられる。また、若い世代は農業や商業などの異業種交流ができ、お年寄りの世代は訪れに来た人と話すことやおもてなしをして喜ばれることが嬉しくて頑張っている。このように参加の段階が参加(iv)に達して運営できている。

6. まとめ

本研究では美里方式のフットパスを明らかにしたことによって、随所に住民の参加の機会が存在し、フットパス事業が住民参加を促していることが分かった。

[謝辞]最後にヒアリング調査や資料提供して頂いた美里フットパス協会、美里町役場、住民の方に深く感謝を申し上げます。

[参考文献] 1) 伊藤雅春, 大久手計画工房: 参加するまちづくりワークショップがわかる本, OM 出版, pp. 13-14, 2003 2) 平野悠一郎, 泉留維: 近年の日本のフットパス事業をめぐる関係構造, 専修人間科学論集・社会学篇, Vol. 2, No. 2, pp127~140, 2012 3) 世古一穂: 参加と協働のデザイン, 学芸出版社, p36, 2009